

わる気と感動

学校だより 24号

平成31年

3月12日(火)

= 卒業おめでとう! = 君たちの創った歴史を忘れない!

第8回 卒業証書授与式 校長式辞より (一部省略)

六十五名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。本日をもって、三年間の中学校の課程を修了するとともに、九年間の義務教育も終了します。

一年生の頃は、しっかりとした判断ができずにトラブルを起こしたり、集団としてのまとまりが足りなかったり、友人関係が上手く築けなかったりと、その姿は、『気づき・考え・行動 そして感動』の実践理念とは遠いものでした。しかし皆さんは、三年間の中学校生活で、少しずつ自分たちの課題と向き合い、自分たちで考え、自分たちで行動できる力をつけてきました。

皆さんが南部中の文化を継承・発展させてきた一年間を振り返ってみると、修学旅行のヒロシマでは、被爆体験を話していただいた岡田さんから、真剣なまなざしで聴いている皆さんの姿とお礼の合唱に、声を震わして感動していただいたこと。支部総体は、優勝旗獲得九本中三本と好成績を残し、陸上競技では六部門中四部門で優勝。『南部中はなぜこんなに強いのか。』と言う問いに、私は『全員があきらめずに最後まで闘った結果と、普段の学校生活に真剣に取り組む姿勢があるから。』と胸を張って答えました。第八回輝城祭は、南部中でしか味わえない、感動や達成感、集団の成長を実感できた二日間でした。私の経験上最高レベルの内容で、歴史に確かな足跡を残せた輝城祭でした。町体育祭ではソーランの踊りと全力応援を披露し、町民の皆さんから大きな拍手をいただき、地域の一員である事を実感しました。音楽発表会では、講師の芦澤先生より『とても素晴らしい合唱だった。南部中の三年生は毎年難しい曲、違った曲に挑戦し成功させている。合唱に対する意識の高さを感じる。』と嬉しい言葉もいただきました。今年度は、特に二学期の後半から日常生活や学習にも目を向け、地道な委員会活動を展開しました。様々な行事で得られた成果を、日常生活に生かしていくことは簡単なことではありません。しかし今年はその部分に大きな第一歩を刻んでくれたと思っています。

これまでの過程には、多くの失敗やぶつかり合い、挫折もあったと思います。しかし皆さんは、自分たちの課題と向き合い、自分たちで考え、自分たちの手で克服していこうと、本音で語り合い、前向きに取り組み『集団として大きな成長』を遂げることができました。南部中で培った自ら『気づき・考え・行動』する力、『感動』できる心と、生涯を通じて支え合える大切な仲間、きっと今後の人生の大きな力となることでしょう。

本校はコミュニティ・スクールとして三年目を迎え、学校運営協議会の皆様には、南部中学校を温かく支えていただきました。また、福祉体験、職業ワイド相談、職場体験学習、思春期体験学習などで、大勢の地域の方々にご指導をいただき、支えていただきました。感謝の気持ちを決して忘れず、ふるさとの自然やふるさとの人々、ふるさとの思い出を、生涯大切にできる人になってください。

これから皆さんは、それぞれの路へと進んでいきます。様々な場面で自分で考え、自分で決め、自分の力で行動すること、その行動に責任を持つことが、今まで以上に求められます。これからの三年間は南部中で培った力が本物かどうかを試されるとともに、生き方の道筋をつける三年間です。どんな困難にもくじけず、立ち向かっていく『覚悟』と、努力を惜しまない『決意』を持って、卒業して行ってください。

最上級生として、南部中学校を力強くリードし、新たな歴史を刻んだ皆さんの姿を、後輩達も、目指す姿としてしっかりと心に刻んだと思います。三年生を送る会で返された、「全力応援」「全力校歌」にも大きな感動をもらい、南部中文化の継承と発展を強く決意したと思います。

結びになりましたが保護者の皆様、本日はお子様のご卒業おめでとうございます。常に親の手助けを必要とした子ども達が、義務教育の九年間で、ここまで成長しました。その成長過程を間近でご覧になり、共に歩んでこられたご家族の皆さんにとって、本日の感慨もひとしおかと思います。心からお祝い申しあげます。

卒業生の皆さんの、これからの成長と活躍を祈念し、式辞といたします。